

車内劇場

eden717

朝。ローカル線の車内。座席にはまばらに空きがある。

駅名を告げる車内アナウンスの後、停車した駅で一人の女性Aが乗り込む。

女性Aは座席で眠る女性Bを見つけ、親しげに声をかける。

A：カランコロンカラーン

B：（眠りから覚め、姿勢を正しながら）いらっしゃいませー... A（名前）！お疲れー。

A：ホント疲れた。

B：もう顔が疲れてるもん。

A：聞いて。まだ時差ボケしてるの。

B：あ、そうじゃん。どうだった？プノンペン。

A：プノンペンってどういう間違いなの（笑う）ビエンチャンだって。

B：（笑う）間違えた。え、じゃあスリジャヤワルダナプラコッテは？

A：それはスリランカの首都でしょ。いや、だからビエンチャンだって。

B：ビエンチャンね。どうだった？ビエンチャンは。

A：一言で言うと、（間）アスレチック。（ドヤ）

B：なにそれ。

A：だってね、タクシーがさ。ゾウなの。ゾウ。

B：ゾウ？ってあのパオーンってゾウ？

A：いや、ゾウは「プアアアアア（ゾウの鳴き真似）」でしょ。

B：無駄に上手いね。

A：それで、そのゾウの背中に六人分の椅子が乗ってるの。超アスレチック（笑う）

B：なにそれ面白そう。前代未聞だわ。ウケるー。

A：ビエンチャン、マジアスレチック（笑う）

C：あの

と、突然、A・Bの隣に居た女性Cが話しかける。

B：え？

C：エキゾチック、じゃないですか？

A：は？

C：だから、アスレチックじゃなくて。

A・B：あー。

B：確かに。

A：細かく言えば。

B：すみません、どうもありがとうございました。

C：いえ。

と、C、すごすごと退場。やや満足そう。

A・B、それを見送ってから話し出す。

B：え、で、結婚式自体はどうだったの。

A：あー、大波乱。

B：お姉さん、奇麗だった？

A：キレイもなにも、向こうの民族衣装が刺激的過ぎてさ。爆笑。

B：え、どんなんどんなん。

A：えっとね、（間。携帯を開いてBに見せる）ホラ、これ。

B：ええー！（笑う）何コレ、ほぼ全裸じゃん。

A：（笑う）そうそう。

B：この、申し訳程度についでる羽根がまた（笑う）

A：シュールでしょ。孔雀なんだよ、これ。

B：セクシー。この、隣に居るのが？

A：新郎ですよ。かっこいいっしょ。

B：あー。A（名前）こういう顔好きだよね。

A：アゴヒゲたまらん

B：職業なんだっけ？

A：霊媒師だって。

B：え？

A：れいばいし、だってさ。

B：なに？それ。

A：お祓いとかするんじゃない？よく知らないけど。

B：へえー。儲かるのかな。

A：うーん。稲川順二と同じくらいじゃない？たぶん。

B：ああ、だったらまあまあ。

A：うん。あ、ほら降りるよ。

B：結婚式の話まだ聞いてないけど。

A：それはまた今度。

ドアが開き、A・B下車。

車内には二人の会話を聞いていた乗客たちの、不思議そうな顔が多く残っている。